

「わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」
ヨハネの福音書4章14節

先日、読んだ「祈りの風」（安藤仲市著）の中に「旅人の木」のことが書かれていました。「直径20センチほどの幹を切ると、3リッターほどの清水が泉のようにあふれるそうである」と。水が溢れ出る?!なんて素敵な木と調べてみました。

この木の学名はRavenala madagascariensisラベナラ・マダガスカリエンス、マダガスカル原産のバナナに似た植物で、扇芭蕉、あるいは旅人木（りょじんぼく）とも言い、英語で、Traveller's Palm(旅人のヤシ)、Traveller's Tree。名前の由来は葉が東西に向かって広がり旅人にとって方角の判断になったからとか、旅人が葉柄を切って滴る水分でのどを潤していたということから来ているそうです。暑さと旅の疲れで喉の渴いていた旅人が遠くからこの木を見つけ、ようやくたどり着き、葉柄を切りそこから出てきた樹液で喉を潤し、また旅を続けることが出来たのでしょう。

イエス様はヨハネ7:14でも「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」と言ってくださいます。人生という旅路の中で渴き、倒れそうになったとき、イエス様のもとに行き、イエス様から生ける水をいただきます。すると与えてくださったその水、聖霊は私たちの心に満ちて、渴きを癒し、私たちに生きる喜びと力を与え、さらに永遠のいのちへの希望で満たしてくださいます。生ける恵みの水を常に求め、幸いな人生の旅路を歩んで下さい。

主イエス様からの祝福を祈ります。

伝道師 川島正子